

令和 3 年 9 月 28 日

令和 3 年度第 3 回政策討論会第二分科会要点記録

○令和 3 年 9 月 28 日（火）10：00～11：20

出席者：中井（座長）、宇野（副座長・記）、反甫、桑原、京西、松本、岡林、雪本

●目的：郷土文化課を招聘し、岸和田市の文化財についての共通認識を深める。

●郷土文化課より、岸和田市の文化財行政についての説明を受けた。

1. 岸和田市の文化財にまつわるストーリーについて
2. 文化財をどのように保存活用してきたか
3. 今後行いたいこと
4. 人材確保・育成について
5. 必要な予算について

●説明を受けての質疑応答

・教育委員会生涯学習部郷土文化課の説明により、本市の課題を確認することができました。文化財保護法及び岸和田市文化財保護条例により業務を行っているが、人材の確保と財源の確保が困難であるため、計画的な事業実施に至っていない。担当課が示す課題は、近代に建てられた指定・登録文化財及び文化財予備群の保存・保護

対策が進んでいないこと、併せて、条例で定める市及び市民の責務では、適切な保存と活用及び公開を求めているが、久米田池の木樋管や五風荘の茶の文化など、条例の主旨が達成できていないとの説明であった。政策討論会第二分科会が示している課題と一致することから、指定文化財及び未指定の文化財予備群の保存・保護計画を策定し、計画的な財源の確保と専門知識を有する人材の確保に向けた対策を検討すべきと考えます。

- ・文化財にどういうものを登録したいと考えているのか。

→指定文化財についてはリストがある。文化財保護審議会で何を指定にするかが決定される。登録有形文化財に関しては岸和田の街のイメージになるものを登録したい。

- ・本市は文化の街であり、文化遺産を保持していくためには、予算を確保し、保護と活用に力を入れるべきである。古墳時代より受け継がれてきた文化と歴史を守り、文化財を保護するためには、時代の流れにおける他文化との関係性も教示していく必要がある。

- ・本市の市史編纂についてはどのように考えているのか。

→現状終わっているという認識だが、過去に作成されているので、新規事業として再開するなら、別組織を作り、加筆修正が必要だと考えている。また、現行の市史はデジタル化されていない。

- ・高石市との発掘業務等で広域連携について、予算や人員を確保するためには、広域連携は一つの解決策だと考えるが今後他市との連携はどう考えているのか。

→調査範囲（面積）や業務量、また全国的にも国庫補助を伴う初めての連携内容であることを考えると、当面は高石市との連携に注力

するべきと考えている。

・例えば、摩湯山古墳などを発掘した場合、どういう効果があって、どういったことが判明するのか。また、いくらぐらいの費用がかかるのか。

→他市の古墳の発掘調査例から考えると、ざくっと7800万円以上、埋蔵文化財の重要性次第では、一億円くらいかかる可能性もある。ただし国の史跡に指定されている為、半額は国庫負担である。調査が行われていない為、何故そこにあるのか、誰が埋葬されているのかも不明で、当時の岸和田地域が重要であったという証拠となる。また、摩湯山古墳と久米田古墳群のつながりはないと考えられる。

・文化財として登録されてはいても、もっと市民に発信し広めていくことが大事と考える。1つの文化財にまつわるストーリーを勉強すれば、おもしろくなるし、興味を持ってもらえるのではないかと。岸和田の魅力も増していくと考える。本市も努力をお願いしたい。

・岸和田市のホームページの中にある「主要な遺跡」のページは2009年3月3日から更新されていない。主要な遺跡でいろんな遺跡が載っているが、これらの遺跡には説明板が設置されているのか。説明板は必要ではないのか。説明板を設置したら、いろんな人に興味を持ってもらえると思う。10月から仁徳天皇陵で発掘調査が行われる。費用など、どうやっているのか、参考にしたら良いと思う。

●次回の開催は、10月20日（水）10時から
他市の文化財行政の先進事例について、調査する。